

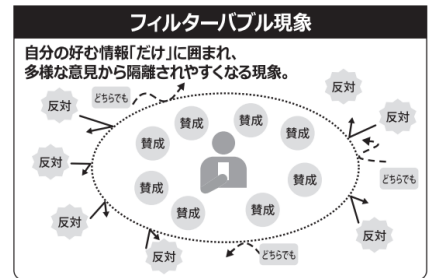


## 令和6年度 全国学力・学習状況調査をよみとく

校長 伊藤 聡

この調査は、小学6年生と中学3年生を対象として、国語と算数・数学を基本として毎年4月に実施されています。今回の学校便りは、調査後に発表された解答を基にして自校で独自に採点した結果を基にして作成しました。正式な結果は7月以降となります。今年度の変更点は、調査の一部のCBT化（生徒に貸与しているタブレットを用いて回答する調査のこと）です。国・数はこれまで同様に紙面での実施でしたが、生徒質問調査（生徒の生活や学習への取組等の質問）はタブレットで回答しました。そして、これが今後拡大していきます。令和7年度の調査は国・数に加えて理科が実施予定ですが、その理科の調査は、CBTで実施します。

GIGAに関わる取組が進展している現在ですが、それを取り上げた出題が様々なされています。例えば、小学校の国語では、他校とオンラインで交流する場面を想定し、意図や目的に応じて情報を集め、どのように伝えるかといった工夫について考える問題を出題していました。中学校の国語では、インターネット上で自分の好む情報が優先して表示され、多様な意見から



から隔離されやすくなる「フィルターバブル現象」について話し合いをする場面を想定した問題が取り上げられていました。上の図で中心にいる人物から見たときに、その現象が指す部分を○で囲むという問題がありました。少し考えてしまいますね。自信をもって○で囲めたかどうかはともかく、子どもたちの正答率は7割程度でした。次に話し合いの場面を参考にして自分の考えを述べる問題では、1割程度正答率が下がります。次のような問題です。

【話し合いの一部】の山岡さんの最後の発言を受けて、あなたならどのような考えを述べますか。次の条件1と条件2にしたがって、実際に話すように書きなさい。

条件1 フィルターバブル現象の特徴について取り上げながら、これからどのように本を選びたいかを具体的に書くこと。

条件2 【話し合いの一部】の誰の発言と結び付くのが分かるように書くこと。

さて、どのような内容を満たして書くことが求められているのでしょうか。

「あなたならどのような考えを述べるか」「実際に話すように書く」「現象について取り上げ」・・・と様々な設定がされています。9年生の解答をみると、質問が読み取れていないという状態ではなかったですが、4割の生徒はこの様々な条件を満たせずに誤答になっていました。特に、条件2の「誰かの意見と結びつけて」に対応できていない人が多かったです。やはり、条件が満たされなければ採点の対象から外れてしまいますので、書き終えた後の見直しがポイントになると思います。

そして、この状況は国語だけではなく、数学や他の教科等でも一緒です。一定の条件に基づいて、自分の考えを伝える、話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結びつけて自分の考えをまとめることは、現在みなさんに求められている力の1つとなります。日頃の授業等でも、「～を基にして」「～について具体的に」など条件が示された質問を受けることがあると思います。日常的に、まずは何が求められているのかをじっくり考え、そして答えるという取組を意識していきましょう。